



2016年1月12日

お知らせ
各位

アキュセラ・インク
(Acucela Inc.)
(コード番号 4589 東証マザーズ)

Biotech Showcase™ 2016 にて登壇のお知らせ

網膜疾患の治療薬開発に取り組むアキュセラ・インク（米国ワシントン州シアトル市、会長・社長兼最高経営責任者：窪田 良、以下「当社」）は、2016年1月11日から13日まで米国サンフランシスコで開催されるヘルスケア業界最大級のインベスターカンファレンス「Biotech Showcase™ 2016」にて、眼科医であり、当社の会長、社長兼最高経営責任者 窪田良が登壇いたしますのでお知らせいたします。詳細は以下の通りです。

日時： 2016年1月13日（水） 15:30～16:00（現地時間）
場所： Parc 55 San Francisco, Track D, Powell Room
登壇： 当社会長、社長兼最高経営責任者 窪田良

「Biotech Showcase™」は、バイオテクノロジーおよびライフサイエンス関連企業がプレゼンテーションを行い、投資家や製薬企業が参加する世界最大のヘルスケアカンファレンスの一つです。今年は2,100人以上の参加者が見込まれています。

窪田博士は次のように述べています。「『Biotech Showcase™』は、当社にとってバイオテクノロジー及びライフサイエンス業界のキーパーソンと直接対話ができる貴重な機会と考えています。当社は、眼疾患に対する革新的な治療法の開発を目指しており、主要パイプラインに、加齢黄斑変性^{*1}に対する経口治療薬である『エミクススタト塩酸塩』^{*2}があります。現在、臨床第2b/3相試験を行っており、今夏、トップラインデータを公表する予定です。この度のプレゼンテーションでは、『エミクススタト塩酸塩』における臨床開発の進捗についてお話しできることを楽しみにしています。」

製薬企業、バイオテクノロジー企業、投資家、アナリストの皆様と個別ミーティングが行えるよう、当社の経営陣も参加いたします。

*1: 加齢黄斑変性とは、中心視力の低下を引き起こし、深刻なケースにおいては不可逆的な中心視力の喪失をもたらす網膜疾患です。当社が開発するのは、地図状萎縮を伴うドライ型加齢黄斑変性に対する治療薬候補です。

*2: 米国で地図状萎縮を伴うドライ型加齢黄斑変性罹患患者508名を対象に、臨床第2b/3相試験を実施しています。現在、本疾患に対しFDA（米国食品医薬品局）で認可された薬剤はありません。この「エミクススタト塩酸塩」については、糖尿病性網膜症、糖尿病性黄斑浮腫などへの適応拡大を検討しています。



アキュセラ・インク (Acucela Inc.) について

アキュセラ・インクは、世界中で数百万人の人々が苦しむ原因となっている視力の低下をまねく眼疾患に対し、治療または進行を遅らせる革新的な治療薬の探索および開発に取り組んでいる、臨床開発段階のバイオテクノロジー企業です。当社と大塚製薬株式会社は、当社が独自に創製した視覚サイクルモジュレーションに基づく地図状萎縮を伴うドライ型加齢黄斑変性の治療薬「エミクススタト塩酸塩」および高眼圧症または開放隅角緑内障に対する治療薬「OPA-6566」の共同開発契約を有しております。

日本語サイト：www.acucela.jp

免責事項

本資料は関係情報の開示のみを目的として作成されたものであり、有価証券の取得または売付けの勧誘または申込みを構成するものではありません。本資料は、正確性を期すべく慎重に作成されていますが、完全性を保証するものではありません。また本資料の作成にあたり、当社に入手可能な第三者情報に依拠しておりますが、かかる第三者情報の実際の正確性および完全性について、当社が表明・保証するものではありません。当社は、本資料の記述に依拠したことにより生じる損害について一切の責任を負いません。

また本資料の情報は、事前の通知なく変更される可能性があります。

本資料には将来予想に関する見通し情報が含まれます。これらの記述は、現在の見込、予測およびリスクを伴う想定（一般的な経済状況および業界または市場の状況を含みますがこれらに限定されません）に基づいており、実際の業績とは大きく異なる可能性があります。今後、新たな情報、将来の事象の発生またはその他いかなる理由があっても、当社は本資料の将来に関する記述を更新または修正する義務を負うものではありません。

【お問い合わせ先】

アキュセラ・インク コーポレートコミュニケーション

TEL : 03-5789-5872 E-mail : pr@acucela.com